

児童発達支援 事業所における自己評価結果（公表）

公表： 2024年 2月 15日

事業所名 こどもサポート教室「クラ・ゼミ」北上上野町校

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5			
	②	職員の配置数は適切である	5		・職員配置を多くしている。	
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	3	2	・階段手すりの設置をする ・屋根、外壁の補修を実施する。 ・机にコーナーガードを設置する。	・危険な箇所があればバリアフリー化を進めている。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	5		・清掃や消毒、換気等を丁寧に毎時間、その都度実施している。 ・療育プログラムや児童の個性合わせたスペースを工夫している。	
業務改善	⑤	業務改善を進めるための PDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	5		・職員朝会、月例ミーティングや臨時会議等で業務改善を進めている。	
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5		・モニタリング時や普段のフィードバック時に保護者からの意向の聞き取りを実施している。	・保護者が相談しやすい環境を整える。
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5		・第三者による外部評価は実施しておりません。 ・業務改善を図るために利用保護者様や関係機関かご意見を伺っている。	・2023年2月にはホームページや校舎内で公表しております。
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		5	・第三者による外部評価は実施しておりません。	・業務改善を図るために利用保護者や関係機関から積極的に意見を伺う。
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5		・毎月1回外部の研修や講習会に参加する機会を設けている	・職員の研修の時間を確保する。 ・各職員が受けた研修を受講できるようにする。
支援の	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	5		・定期的なアセスメント以外にも児童の環境が変化する毎に実施している。	・定期的なアセスメントだけでなく環境が変わるごとに児童発達支援計画を作成する。

提供				<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて職員間で話し合いの場を設けている。 ・保護者様やその家族、相談支援等の意見をしっかり理解して、計画を作成するように取り組んでいる。 		
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5		<ul style="list-style-type: none"> ・「クラ・ゼミ」全体で標準化されたアセスメントシート以外のシートも活用している。 	・全職員がアセスメントシートを基に個別に応じたより良い支援プログラムが作成できるようになる。
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	5		<ul style="list-style-type: none"> ・児童や家族以外から情報を頂き園や学校、総合的な発達のために支援内容を決定している。 	・定期的にガイドラインの読み直しを全職員が実施する。
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	5		<ul style="list-style-type: none"> ・支援プログラムを作成する前に指導員が個別支援計画を読み直す。 	・家族からのニーズに応えるように柔軟に支援プログラムを決定する。
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	5		<ul style="list-style-type: none"> ・多くの視点で立案している。 	・普段の児童の様子に主眼を置き立案に関する話し合いをより活性化させる。
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5		<ul style="list-style-type: none"> ・特定の児童を特定の支援員が受け持たない。 	・職員相互による支援プログラムと支援記録を読み、意見交換をより活性化させる。
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	5		<ul style="list-style-type: none"> ・月に1回から3回程度定期的なイベントを継続的に実施している。 	・指導員間で利用児の情報共有をこれまで以上にこまめに実施し、本人に沿った支援プログラムを提案する。
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	4	1	<ul style="list-style-type: none"> ・支援が終わる毎に児童の様子を職員間で共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今まで以上に情報交換を活発にする。 ・支援前には実施をする。
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5		<ul style="list-style-type: none"> ・児発管は支援記録を毎日確認するようにしている。 ・指導員相互で支援見学を実施している。 	・支援の前後で児童の情報共有の徹底化を図る。
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5		<ul style="list-style-type: none"> ・職員相互で支援記録の確認を行い、気が付いた点があれば改善につなげる。 	・誰が見てもわかるようによりきめ細かく支援記録を記入する。
	⑳	定期的にもモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	5		<ul style="list-style-type: none"> ・定期的にもモニタリングの他にも実施している。 	・全職員がモニタリングを出来るようになるのと同時にモニタリング帰路を記入できるようになる。
関係機	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5		<ul style="list-style-type: none"> ・児発管以外の職員も参加できるようにしている。 	・全職員がサービス担当者会議に参加できるよう子どもの状況や発達段階を精通できるようにする。

関 や 保 護 者 と の 連 携	②②	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	5		・定期的に関係者と話し関係を構築するようにパソコンや紙面、口頭でのやり取りを実施している。	・全職員が子ども・子育て関係者と連携できるような体制を構築する。
	②③	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている			・車いすを使用する児童や医療ケアに関わる児童が利用していないので、対応していません。	・本教室は基本的に医療ケア児を受け入れておりません。
	②④	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている			・車いすを使用する児童や医療ケアに関わる児童が利用していないので、対応していません。	・本教室は基本的に医療ケア児を受け入れておりません。
	②⑤	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5		・児童の担当について支援計画報告書の記録や持参する職員を決めている。	・関係機関職員に支援の様子をこれまで以上に見て頂く。 ・タブレットを使用した支援や教材の紹介をする。 ・支援報告書の活用の継続を図る。
	②⑥	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	4	1	・定期的に関係者と話し関係を構築するように努めている。	・関係機関職員に支援の様子をこれまで以上に見て頂く。 ・タブレットを使用した支援や教材の紹介をする。 ・支援報告書の活用の継続を図る。
	②⑦	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5		・定期的に訪問しており、その回数も増やしていった。	・全職員が助言、研修を受ける機会を確保する。 ・本教室で研修を受ける機会を設ける。
	②⑧	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	5		・園訪問を定期的実施するようにしている。	・解放された教室を目指し、交流の機会を設ける。
保 護	②⑨	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	3		・職員が積極的に参加できる環境を整えている。	・関係機関と情報共有を図り、教室運営の活性化につなげる。
	③⑩	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5		・電話やラインでも常に情報交換ができるように努めている。 ・保護者と話す機会や時間の確保をしている。	・全職員が保護者からの相談や課題について解決やアドバイスを送れるようになる。
	③⑪	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	4	1	・ペアレントトレーニングは行っていませんが事業所内相談でお子様の対応の仕方についてご質問があったときは知識と経験から考えられる対応の仕方をお伝えするようにしている。	・保護者向けイベントを企画し保護者様同士の交流、情報交換の場を定期的に設定する。 ・ペアレントトレーニング相談は対応する。
保 護	③⑫	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5		・全職員ともに運営規定は頭の中に入っている。	・今以上に、契約時および規定変更時に丁寧な説明を行う。

者 へ の 説 明 責 任 等	③③	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	5		・職員のガイドラインの定期的な読み直しを図っている。	
	③④	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5		・全職員が必要な助言と支援が実施できるような研修の確保に努めている。 ・教室内で指導員による研修会を実施している。	・全職員が全保護者に対して必要な助言ができるような知識とスキルを身に付ける。
	③⑤	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	2	3	・保護者会はありません。	・定期的なペアレントトレーニングの実施をする。
	③⑥	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	5		・事業所内相談では職員の指名制度を取っている。 ・事前に相談内容を把握し、全職員で相談内容について話し合いの場を設定している。	
	③⑦	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5		・教室新聞の月1回の発行の継続。 ・毎月担当者を変え紙面の充実を図っている。	・より充実した紙面内容。 ・見やすい紙面づくり。 ・今後も継続予定。
	③⑧	個人情報の取扱いに十分注意している	5		・写真や動画は本人が特定されないように徹底している。	・職員相互によるSNSの確認をする。 ・これまでと同様に紙面での個人情報は徹底した管理をする。
	③⑨	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5			・集団事業所内相談の実施や普段からやり取りを十分に時間を掛けて実施している。
非 常 時 等 の 対 応	④①	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	5		・北上上野町校独自のマニュアルを作成している。	・全職員がマニュアルを頭の中に入れる。 ・臨機応変に対応できるようになる。
	④②	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5		・児童に合った訓練を実施している。	・定期的に防災トレーニングの実施。室内での避難訓練、夏季期間の屋外での避難訓練を継続する
	④③	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	5		・定期的な情報共有を図る。	・紙面およびパソコン、口頭での情報共有の徹底を図る。 ・臨機応変に対応できるスキルを身に付ける。

④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	5		<ul style="list-style-type: none"> ・紙面での保護者から情報を頂く。 ・定期的な情報共有を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・お菓子の配布時はその都度保護者と口頭で確認している。
④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5		<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に過去のヒヤリハットの読み直し。 ・他校でのヒヤリハットの情報共有を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリハットや事故を未然に防ぐために予測できる能力を全職員が身に付ける。
④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5		<ul style="list-style-type: none"> ・過去の虐待事例の読み直し。 ・虐待を未然に防ぐために教室内で定期的な会議を開く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員が虐待の知識を身に付ける。
④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	5		<ul style="list-style-type: none"> ・教室内職員間で情報共有を徹底する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・契約時には今以上丁寧に説明をする。 ・全職員が身体拘束の知識を身に付ける。

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。

児童発達支援 保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）

公表：2024年 2月 15日

事業所名：こどもサポート教室「クラ・ゼミ」北上上野町校

保護者等数（児童数）：27 回収数：23

割合：85%

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	①	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	21	2			<ul style="list-style-type: none"> ・個室なので他こどもの目を気にすることが無いためとても良いです。 ・子どもが伸び伸びと活動していると思います。 ・支援の時間が足りません。 ・運動スペースもありとても良いです。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラムや児童の特性に応じた活動スペースを確保する。 ・安心安全な支援が受けられるようこれまで以上注意する。 ・今後、支援時間の見直しがあるかもしれません。
	②	職員の配置数や専門性は適切であるか	20	3			<ul style="list-style-type: none"> ・先生が増えて嬉しいです。 ・子ども一人に対して1人～2人の先生が何時も配置されています。 ・いろいろな資格を持った先生がいてとても良いです。 ・若い人から年配の方まで、男女問わず配置されていると思います。 ・発達障がいの特性に関する専門性が不足していると思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安定した職員数の確保や様々な資格を所持した人員確保に努めます。 ・全指導員が個々のスキルの向上を目指し利用者が満足できる支援に取り組みます。
	③	生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	8	1				<ul style="list-style-type: none"> ・利用者が十分満足できるように生活空間を設定する。 ・支援室他教室内の環境整備を進める。 ・
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境となっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	21	2			<ul style="list-style-type: none"> ・十分だと思えます。 ・とてもきれいで清潔だと思えます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今まで以上に換気や消毒を徹底する ・安全を大前提に利用者が十分に活動できる空間を確保する。
適切な	⑤	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されているか	22	1			<ul style="list-style-type: none"> ・現状の報告の後、目標を決めて計画が作成されます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者と情報法共有を図りフィードバックや事業所内相談、モニタリングを普段の支援に活かしていく。

支援の提供	⑥	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	19	4			児童発達支援ガイドラインの内容が分からない。	・ガイドラインの定期的な読み直しを継続し支援の充実につなげる。
	⑦	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	22	1				
	⑧	活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか	21	2			<ul style="list-style-type: none"> ・本人が楽しいことを再祖取入れつつ新しいプログラムを組んでいます。 ・指導員によって違った内容でとても工夫されていると思います。 ・保護者の要望を取り入れてくれている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別支援計画に沿ったプログラムを入れつつも、それぞれの指導員がプログラムが固定化されないよう努める。 ・常に新しい教材や教具を取り入れていく。
	⑨	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	12	3	3	5	<ul style="list-style-type: none"> ・園で障がいがない子と活動しているので大丈夫です。 ・園で障害のない子と関わりがあるので、ここでは無くても良いと思います。 ・個別療育なので仕方無いと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な園訪問の継続、各種イベントへ参加することによって障がいの無い子どもと活動する機会を増やす。
保護者への説明等	⑩	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	22	1			<ul style="list-style-type: none"> ・責任者の先生が一つ一つ説明してくれます。 ・契約の時に丁寧に説明してくれます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・契約時に限らず、運営規定改正や変化したことは丁寧な説明を心掛ける。
	⑪	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされたか	17	2	2	3		
	⑫	保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）が行われているか	10	7	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・支援が終わった後に家での様子を先生に話しています。 ・クラゼミ以外でのことにも相談に乗ってくれています。 ・支援級か普通級かで迷っているときに適切なアドバイスを受けました。 ・事業所内相談でお話を聞いてもらっています。その際に悩み事を相談しています。 ・保護者がそれほど時間を取れません。 	<ul style="list-style-type: none"> ・対面以外でも ZOOM や電話ラインでのペアレントトレーニングの実施。 ・十分なペアレントトレーニングを行うために講習会や研修会に参加し職員のスキルアップを図る。

⑬	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	18	4	1		<ul style="list-style-type: none"> ・毎回利用後に日々のことを伝え合う時間があります。 ・子どもが今、何が好きなのか、ハマっているのかを理解して、それに沿ったプログラムを組んでいただいております。 	<ul style="list-style-type: none"> ・対面以外でもZOOMや電話ライン等で十分な情報交換を図る。 ・必要な情報を保護者から頂き支援プログラムに活用する。 ・事業所内相談やフィードバックをこれまで以上に充実させる。
⑭	定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	19	1	1	2	<ul style="list-style-type: none"> ・相談の際は面談の時間を設定してくれます。 ・事業所内相談でいろいろアドバイス頂いているので助かっています。話や相談に答えて頂いてありがたいです。 ・保護者がそれほど時間を取れません。 ・連絡帳やリクエスト帳があれば良いです。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所内相談の定期的な案内の継続。 ・アドバイスや助言について職員のスキルの向上を図る。 ・連絡帳やリクエスト帳は保護者から要望があれば作成します。
⑮	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	8	2	5	8	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者とおしへの関りは特にありません。 ・個別療育なので難しいと思います。 ・必要性を感じていません。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今のところ保護者会を作る予定はありませんが要望が多ければ今後考えます。
⑯	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	20	1		2		<ul style="list-style-type: none"> ・口頭やライン、紙面で相談内容を共有しております。 ・保護者が相談しやすい職員を選択できるような体制を継続する。 ・相談内容の解決に向けて職員間で共通理解の徹底化を図る。
⑰	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	20	1		2		<ul style="list-style-type: none"> ・月1回の上野町校通信の発信の継続。 ・インスタグラムやブログ等SNSの定期的な発信を継続するとともに内容の充実を図る。
⑱	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	22			1		<ul style="list-style-type: none"> ・SNSと紙媒体を使用した情報の発信を継続し内容の充実を図る。 ・2024年2月に自己評価結果の公表を予定している
⑲	個人情報の取扱いに十分注意されているか	21			2		<ul style="list-style-type: none"> ・写真や動画撮影の際は誰か特定できないようにしている。 ・紙面やパソコンでの個人情報管理対体制をこれまで以上に強化する。

非常時等の対応	⑳	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか	17	1	5	<ul style="list-style-type: none"> ・契約時に緊急避難場所の確認や避難経路、連絡についての確認を行っている。 ・定期的に緊急時について周知する。 ・防犯学習や避難訓練や防災学習の継続をする。
	㉑	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	17	1	5	<ul style="list-style-type: none"> ・まだ訓練に参加したことがありません。 ・どの程度の訓練をしているか分かりません。 <ul style="list-style-type: none"> ・月に1回、職員での坊さん訓練の継続。 ・夏期時において教室内での防災訓練および、支援プログラムの中に防災トレーニングの定期的な実施の継続。 ・夏季期間の屋外での避難訓練の実施をする。 ・令和6年度は避難訓練の回数を増やす。
満足度	㉒	子どもは通所を楽しみにしているか	21		2	<ul style="list-style-type: none"> ・使用したプログラムを再度家でチャレンジしています。とても楽しく通えています。 ・とても楽しみにしております。ありがとうございます。 <ul style="list-style-type: none"> ・児童、保護者が楽しく通うため、楽しく分かりやすい課題や教材を用意する。
	㉓	事業所の支援に満足しているか	19	1	3	<ul style="list-style-type: none"> ・思ったより手厚く支援してくださりととてもありがたいです。 ・通い出したことによって確実に成長しています。 <ul style="list-style-type: none"> ・教室や指導員への信頼を高めこれまで以上に支援の充実を図る。

○この「保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）」は、保護者等の皆様に「保護者等向け児童発達支援評価表」により事業所の評価を行っていただき、その結果を集計したものです。

